

資格取得めざし55人が受講

4月14～16日 大阪で登録鉄筋基幹技能者講習を開催

全鉄筋の主催による「第23回登録鉄筋基幹技能者講習」が4月14日から16日までの三日間、大阪市中央区のエル・おおさかで実施されました。今回は、関鉄協（関西鉄筋工業協同組合）の会員企業の職長ら55人が受講。三日間、延べ約18時間にわたる講習で登録基幹技能者の資格取得をめざしました。

初日の14日に行われた開講式では、関西鉄筋工業協同組合の岩田正吾理事長が挨拶し「発注者にとって資格は一つの物差しであり、施工業者を選ぶ基準ともなる。当組合としても発注者に対して有資格者の評価や活用を要望していく考えであり、皆さんは資格を取得することで自らの商品価値を高めるという意識を持ってほしい」と激励しました。

三日間の講習では基幹技能者の役割や関連法規、原価管理、品質管理、施工管理、事務管理、工程管理、資材管理、安全管理、実務の話し方、OJTなどについて講義が行われ、最後に修了試験が実施されました。可否の結果は4月末の予定。

講師を務めたのは次の方々です。

加藤欣司氏（東豊鉄筋社長、全鉄筋技術・教育訓練委員会副委員長）、酒見荘次郎氏（シグマ技研社長）、恵谷信氏（恵谷鉄筋社長）、田村晃一氏（田村工業常務、全鉄筋青年部幹事）、長木鉄次氏（長木鉄筋社長）。

※

基幹技能者制度は、平成8年に専門工事業団体による民間資格としたスタートしましたが、平成20年1月に建設業法施行規則が改正され、新たに「登録基幹技能者制度」として位置づけられることになりました。同年4月以降に国土交通大臣が登録した機関が実施する登録基幹技能者講習の修了者は、登録基幹技能者として認められ、経営事項審査においても評価の対象となりました。また、近畿地方整備局などでは総合評価方式の加点項目にもなっています。平成23年3月末現在の全国の登録鉄筋基幹技能者の数は1、224名で、このうち関西では大阪173名、兵庫43名、和歌山2名、京都1名となっています。

次ページ写真添付

